

目次

- ◇ 名手訪問／対談 茂木賢三郎
(独立行政法人日本芸術文化振興会 理事長)
- ◇ 講演会／日本文化の中の『日本らしさ』とは 小倉和夫
- ◇ 日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る⑩ 東京大学文学部 教授 古井戸秀夫
- ◇ 役員会等の動き、役員等名簿
- ◇ 平成 22 年度 正味財産増減計算書
- ◇ 特別会員芳名
- ◇ NBF 活動報告・行事予定・編集後記

名手

訪問

茂木 賢三 郎（もぎ けんざぶろう）

対談 茂木 賢三 郎（独立行政法人 日本芸術文化振興会理事長）
西川 扇 藏（公益財団法人 日本舞踊振興財団 理事長）
敬称略



2011年5月31日
於：独立行政法人 日本芸術文化振興会 理事長室

西川 理事長には早い時期にお目にかかりたいと存じ上げておりましたが、なかなか叶わず今日になってしまいました。

茂木 いつも私どもの振興会の事業ではお世話になっております。とりわけ国立劇場の主催公演では早い時期からご出演をいただいているようで感謝いたしております。

西川 おかげさまで劇場の開場記念の舞踊公演からですので、ずいぶん長いことこちらの劇場の舞台に立たせていただいております。

茂木 開場は昭和41年、東京オリンピックの2年後ですから、歴史を感じますね。

西川 私もまだ若輩でしたが、一応日本舞踊界の五大流派といわれているなかの当主ということで、名だたる先輩連中に混ぜていただいたのだと思います。

茂木 そういえば先生は西川流の十代目の

宗家になられたのが、ご幼少の折だったそうで。

西川 母である九代目が突然の病であっという間に亡くなってしまいまして、流儀の古老たちが相談してとりあえず私に継がせたらどうか、いうことになったようです。

茂木 おいくつでいらしたのですか。

西川 満7歳です、小学校一年生でした。

茂木 それはそれは、いくら流儀の一大事といっても7歳で宗家になれるのは他に例がないでしょうね。

西川 どうでしょうか、ともあれいろいろな方々のお力添えもあり、今まで何とかやってこられました。

茂木 ところで永年国立劇場の自主公演にお出ましいたしておりますのに、この間の「素踊りの会」では已む無く中止ということになってしまい誠に申し訳ありませんでした。

西川 とんでもないことでございます。何とかいいましてあの大地震の翌日で

したから如何とも仕方がないことでしょう。

茂木 丁度舞台稽古の日で、途中まで進んでいた時でございましたね。

西川 私も夕方から稽古に出向くために自宅で待機しておりました。私も戦争まで体験している世代ですが、あれほど激しく長い時間に亘って揺れた地震は初めてです。

茂木 劇場にはいろいろな機材がありますから、安全点検が済むまでは舞台稽古はもとより、翌日の公演も中止にせざるを得ませんでした。


西川 しかしあれからもう直ぐ三ヶ月になろうとしています、まだまだ避難生活を強いられている方がたくさんいらっしゃいます。

茂木 我々は一日も早い復興を願うばかりでございます。何といたってもあの戦争から這い上がって戦後日本は見事な復興を成し遂げたわけですから。

西川 理事長は戦争の頃はまだご幼少でいらしたでしょうね。

茂木 終戦の時が小学校二年生でした。生れ故郷の千葉県の野田市におりました。先生は東京でいらっしゃいますね。

西川 はい、御徒町の実家におりました。例の東京大空襲の時は隅田川の方から燃え出して、あの辺りでは我が家が一番最後に焼けたのですが、まさに地獄絵でした。

茂木  大変な思いをされましたね。私の方は東京からは直線距離で35キロくらい離れているのでしょうか。夜中に母親にたたき起こされて、東京が大変なことになっていると言われました。東京方面の西南の方角の空が夕焼けのように真っ赤でございました。そのときの光景は今でもはっきりと目に焼きついております。

西川 強烈過ぎる印象でしょうね。ともあれ今回の大災害に関しても、被災された方々は諦めずに一歩一歩着実に

回復への道のりを歩いて行って欲しいと思います。

ところで理事長は企業のご出身でいらっしゃいます。

茂木 はい。キッコマンという会社におりましたが、この会社はもともと8件の親戚、同族が合同して大正6年に株式会社になってスタートいたしました。私の生れた家も創業家の一つに当たります。

西川 遡れば長い歴史のある会社でございますね。

茂木 確かに株式会社になる前を考えたら古くからありましたね。それで合併の調印に参加した家から、ひとりづつ後継者が入るといふ不文律がありました。

私には兄がおりましたので、当然キッコマンに入る立場にはなかったのです。

西川 なるほど。

茂木 それで大学を卒業して就職をしなければならなかったのです。

西川 今でいう就活ですね。

茂木 はい。私は下手の横好きで英語が好きだったものですから、外国の関係の仕事が多い銀行を選んだのです。

西川 当時の東京銀行ですね。

茂木 そうなんです。ところが入行して一年ほど経った頃、私の生家は茂木の分家筋でしたが総本家に子供がいなかったのです。それで私に本家の養子になってくれと頼まれまして、最初は断ったのですが説得されてしまいました。それで本家の後継者という立場で、その頃は野田醤油株式会社という立場で、その頃は野田醤油株式会社という立場で、入社したわけです。

西川 大きな転換ですね。ということはハーバード大学に行かれたのはその後でございますか。

茂木 はい、会社が海外留学制度を設けましてその二期生で行かせていただきました。33歳になっていましたが、二年間ハーバード大学で経営学を学びました。

西川 私どもには余り馴染みのないMBAという資格を取得されたと伺っておりますが、これはどのようなものでしょうか。

- 茂木 経営学修士と訳されておりますが、要するに経営全般についてかなり実務的に学ぶのですね。
- 西川 日本からもいろいろなジャンルの方が留学されているのですね。
- 茂木 そうですね。私費留学もありましたが、大半が企業派遣でした。大手の商社、鉄鋼会社、銀行等様々な方がいらっしゃいました。
- 西川 得がたい貴重な体験でございましたね。
- 茂木 なかなか海外で自由に二年間も勉強できる機会はないですから、振り返ってみれば懐かしく楽しい思い出です。
- 西川 帰国されてからは会社に戻られたわけですね。
- 茂木 キックマン一筋でいろいろな部署で働かせていただきました。
- 西川 会社ではそれなりにご苦労もされたかと思えますが。
- 茂木 細かなことを挙げればキリがありませんが、思い返しますと石油ショックのことは大きかったですね。
- 西川 昭和48年でしたでしょうか。
- 茂木 そうですね、秋から発生したあの騒動は忘れられません。あらゆるお店から砂糖やトイレットペーパー等が消えました。私どもの醤油も同様でした。
- 西川 経済が高度成長をしていたこの時代に信じられないことでした。
- 茂木 消費者からは醤油を出し惜しみをしているのか、或いはどこかに隠しているのではないかと叩かれました。
- 西川 それは痛くもない腹を探られているようで大変でしたね。
- 茂木 そうなんです。それで某新聞社がどこかの倉庫に空き瓶がたくさんあるから在庫があると報道してしまいました。
- 西川 無責任ですね。
- 茂木 全くその通りです。当時醤油は2の瓶に入れていました。ところが新聞社が撮った写真をよく見るとお酒の瓶だったのですね。
- 西川 お酒は1.8 ですね。
- 茂木 はい、よく見れば違うのですが、一瞬では見分けが付きません。しかし余り抗議をしてもまた批判を受けるだろうと、会社としても静観しようという方針になりましたが、私は若かったこともあって非常に矛盾を感じました。
- 西川 つらいところですね。そういえば最近醤油の瓶を見かけなくなりました。
- 茂木 それは核家族化のために一家族あたりの醤油の消費量が減ってしまったことに起因しています。
- 西川 なるほど。
- 茂木 醤油は天然醸造物で光と熱と空気に弱いのです。
- 西川 それでは醤油が余って痛んでしまいますね。
- 茂木 食品安全という点では全く問題ないのですが、色が多少黒くなって風味が落ちてしまいます。今は容器がペットボトルになって1、さらには750mlや500mlも販売しております。
- 西川 時代の流れでしょうね。それから日本独自の商品の醤油ですが海外でも良く見受けられます。
- 茂木 それは目ざましいものがあります。なにしろ私どもがアメリカで製造している醤油の量は、日本の第二位のメーカーを凌いでいますから。
- 西川 それはたいしたものですね。
- 茂木 アメリカばかりではなくヨーロッパにも浸透しており、さらには東欧からロシアにも広がっています。
- 西川 昨年、日本舞踊ロシア公演でモスクワとサンクトペテルブルグに行きましたが、その和食のお店で確かにキックマンの醤油をいただきました。
- 茂木 それはそれは、ありがとうございます。キックマンではつい二年前までは取締役会のメンバーで、最後は副会長の立場でした。たまたま取締役をリタイヤする年齢になっておりまして、ある日突然文化庁からご連絡がありました。
- 西川 現在のお立場に就かれる発端ですね。
- 茂木 はい、文化庁の次長と人事担当の課長がぜひお会いしたいと仰られて、訪ねてこられました。

西川 それは驚かれましたでしょう。
茂木 驚きもいたしましたし、何のお話であろうかと思当もつきませんでした。私は自分のことは棚に上げて、この頃日本語が乱れている、などと方々でしゃべっていましたが、その関係かなと思いました。


西川 日本語の乱れも大事な問題ですから、引き続き大いに発言なさってください。

茂木 ありがとうございます。それで来訪の理由がこちらの理事長になって欲しいというのですから、まさに青天の霹靂でした。

西川 文化庁もお目が高いと思います。
茂木 いやいや、わたしは野蛮ではないかも知れませんが、あまり文化的でもありませんし、芸術にも疎いものですから、何回かご遠慮申し上げました。

西川 お若い時分にご養子になられてキックマンに入られて以来の、人生の大きな岐路になりますね。

茂木 仰るとおりですね。最終的にお引き受けいたしましたのは、私自身にとっていろいろと勉強をさせていただくことができるいいチャンスであると考えたのです。

西川  素晴らしいことだと思います。やはり大企業の取締役までなさった方は、組織の動きを全体像として把握できるかと存じますので、日本芸術文化振興会のトップとして、存分に力量を発揮されていらっしゃることでしょう。

茂木 恐れ入ります。なかなか十分にはできませんが、多分私に求められているのは、企業経営に携わってきた人間には組織のマネジメントといいですか、大勢の人間がいますから、そのようなことを期待されているのかと理解しております。

西川 私も以前こちらの評議員を仰せつかっております、あらゆるジャンルの方が集まりまして様々な意見を

交わされておりました。それらをまとめて進むべき方針を決められるのが理事長をはじめ振興会の幹部の方たちですね。

茂木 その節はいろいろとお世話になりました。ありがとうございます。それにしても私は今までにお目にかかったことのない素晴らしい芸術家にお会いして、専門のお話などを伺う機会が増えて大変感謝いたしております。

西川 とまあ以前とはずいぶん異なる世界かと存じますが、この二年余りを過ごされて如何でしょうか。

茂木 前身の特殊法人から現在の独立法人を通して代々理事長職は文部省、今は文部科学省ですが、その事務次官や文化庁長官をなさったような方が就かれておりました。

西川 そうでしたね。
茂木 私の前任者が初めて民間の企業人でした。

西川 サントリーの副社長をされた方でした。

茂木 私が民間からは二人目ということになりますが、今の立場は準公務員ということになっております。

西川 そうなんですか。

茂木 はい。ですから内定をいただいて最初に手渡されたのが倫理規定でした。

西川 堅苦しいようですが厳正なのですね。

茂木 ただ雰囲気はとてもフェアな感じがいたします。例えば仮に私が何らかのわがままを通そうといたしますね。仮にですよ。しかしそれは通らないと思います。そのようなシステムになっております。

それだけ職員の皆がきちんとした枠組みのなかで仕事に従事しています。

西川 確かにこの劇場はひとつの組織としてしっかりと機能しているように私も感じております。これから理事長が新しく取り組まれたことはございますか。

茂木 私なりにいささか努力しつつありますが、まず伝統芸術の仕事をしている以上、多くの方とりわけ次代の方

西川 たちへきちんと継承していかなければならないということでしょうか。大変重要なことだと思います。

茂木 私どもの振興会は歌舞伎、文楽、日本舞踊、能・狂言をはじめとしてあらゆる伝統芸術の公演事業を主催しておりますが、新たな観客を増やしていかなければならないと考えております。

西川 以前からある青少年に対しての公演や、近年は社会人のための公演なども開催していらっしゃるんですね。

茂木 そのためには、こちらの事業とはいささか離れますが、小中学校の国語や社会の教科書にもっともっと日本の伝統芸術のことを盛り込み、興味を持たせるようなことをしていかな

西川 といけませんね。それは痛切に感じます。このところ文化庁が伝統芸術の分野で小中学生を対象にした事業を策定していただいておりますが、理事長が仰られたようにその前の予備知識として教科書で学ぶことが可能ならば一層効果があると思います。

茂木 今日先生とお話をさせていただいて、伝統芸術にお寄せになる情熱を深く感じました。本当に頭が下がります。どうぞいつまでもお元気でご活躍なさってください。

西川 理事長にはこれからも日本の伝統芸術のために一層ご尽力をされてください。今日はありがとうございます。

茂木賢三郎氏 プロフィール

昭和13年 千葉県野田市出身。35年 一橋大学経済学部、48年 ハーバード大学経営大学院修士課程(MBA)卒業。35年 東京銀行、37年 キッコマン株式会社(当時 野田醤油株式会社)入社。58年 取締役就任。常務、専務、副社長、副会長を経て、平成21年6月 取締役を退任、相談役(非常勤)に就任。同年7月 独立行政法人 日本芸術文化振興会理事長に就任。平成23年6月 キッコマン株式会社特別顧問に就任。

このほか、日本経団連少子化対策委員会委員長、経済同友会幹事・学校と企業・経営者の交流活動推進委員会副委員長、ハーバード・ビジネス・スクール同窓会本部理事、同日本同窓会会長、厚生省中央児童福祉審議会委員、文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、厚生労働省人生85年ビジョン懇談会メンバー等を歴任し、現在恩賜財団母子愛育評議員、こども未来財団評議員、日本英語交流連盟理事等をつとめる。

内閣府より「公益財団法人」への移行認定

この度財団法人日本舞踊振興財団は、内閣府より公益財団法人への移行が認定されました。賛助会員の皆様をはじめとして、平素よりご支援、ご協力を賜っている方々には、改めて厚く御礼申し上げます。

平成23年4月1日付けで本財団は「公益財団法人日本舞踊振興財団」として新たな活動を開始いたします。

これを機に今までにも増して諸事業の更なる充実を図っていく所存です。皆様におかれましては今後とも引き続き御支援・御協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人日本舞踊振興財団
理事長 西川 扇 藏